「ダンス授業におけるアクティブラーニングの研究～ICT を活用して～」

学校番号　４６　学校名　愛知県立小牧南高等学校
研究責任者氏名　　髙矢　美穂子

1　はじめに

本校は、アクティブラーニングの研究指定校となっている。各教科でさまざまな取り組みがされており、どの教科も積極的にアクティブラーニングについて研究し、熱心に取り組んでいる。しかし、保健体育科として、アクティブラーニングとは何かを自問したとき、はたして体育の授業において、生徒が主体的、能動的、協働的に学習を進めていくとはどういうことなのかを研究したいと思い、今回の研究テーマとすることにした。まずは自分が担当するダンスの授業において、受け身ではないアクティブラーニングを意識した授業展開を考え、ICT を取り入れて授業改善を試みた。

2　研究概要

(1)　これまでのダンス授業の問題点

ア　教師が考えたダンスを覚えて踊る「課題ダンス」では、教師から一方的に教えていく教師主体の授業となっていた。

イ　踊っている自分の姿は、小さな姿見でしか確認することができず、全体の動きなどは確認することができなかった。

ウ　発表会で初めてビデオ撮影をすると、前後の位置が重なって、後方で踊る生徒の動きが確認し辛いことが多かった。

エ　生徒同士で教え合う場面はあったが、客観的に確認できないので、教える側は教えにくく、教わる側も教わりにくく思えていた。

(2)　改善のための取り組み

ア　グループ練習の時間を長くとるようにした。これにより、教え合い、学び合いの機会を増やし、ダンスが苦手な生徒も友人に教わることにより、共にダンスを楽しむ様子がみられた。

イ　タブレットを用いて個人やグループのダンスを動画撮影し、その場で動きを確認させた。それにより、自分の動きや仲間の動き、グループの動きの良い点や改善点が客観的に確認できて、自分たちでより良い作品に仕上げようという、より積極的な練習につながった。

(3)　生徒のアンケート結果及びそこから読み取れる考察

ア　生徒に対し質問形式で以下のアンケートを実施した。回答は以下のとおりである。

(ｱ)　教え合いの時間で特に意識したことは何ですか？

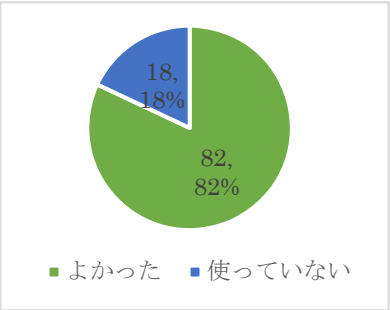
a　苦手なことやできなかったことを納得するまで聞くこと

b　グループ皆で楽しく踊ること

c　困っている友達に優しく教えてあげること

d　教えることが難しい時は先生にお願いすること

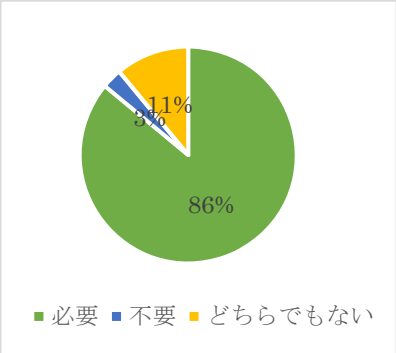
(ｲ)　タブレットを使用してよかったですか？



(ｳ)　タブレット（ビデオ）を使用して良かった点は何ですか？

自分の姿、動きを確認できた	１３％
客観的に全体を見ることができた	３０％
個人やグループの改善点がわかった	５３％
緊張感をもって取り組むことができた	４％

(ｴ)　ダンスの授業でタブレット（ビデオ）は必要だと思いますか？



(ｵ)　ダンスの授業時に、タブレット以外にあると良いなと思うものは？

a　グループ全体が写る大きな鏡

b　創作の参考 DVD を鑑賞するための DVD プレーヤー

c　グループそれぞれが使用できる多くのタブレット

3　まとめ

今回の研究でわかったことは、ダンス授業でタブレットなどの ICT 機器を用いることは、生徒の主体性を導き出すことに、とても有効であるということだ。これまでは、教師が生徒の前で技術指導をし、生徒は言われた通りに練習するだけの授業が主流だった。しかし、１台のタブレットを使用しただけで、生徒は自分の動きを分析したり、改善するための方策を探ったり、協働しながら学習活動を展開していくようになったのだ。また、アンケートからも分かるように、生徒も ICT 機器の必要性を強く感じている。タブレットに限らず、動画を視聴できるものや、今回は１台しかなかったタブレットも各グループに１台あれば、より活発な学習活動を展開できると実感することができた。

４　今後の課題

ビデオやタブレットといったＩＣＴ機器は、ダンスの授業で非常に役立つことがわかった。ダンスに限らず他の種目においても、動きを視覚化することにより自分の課題が明確になりやすく、その後の練習に活かすことができるので、技能向上につながると考える。また、自分の動きとモデルとなる動きとを比較して、その違いを認識することにより、より上達するにはどのような点に練習のポイントをおくべきかを自分なりに考えることができるようになるのではないだろうか。他にも、試合をする上で、個人もしくはチームの状況を分析し、意見を出し合い課題を発見し解決していくことにも、ＩＣＴ機器は非常に役立つはずである。つまり、動画で確認しながら友人らと意見交換をし、試行錯誤を繰り返すということが、高等学校保健体育科の授業における「言語活動の充実」につながると考えられる。この仮説を検証するために、他の種目の授業においても積極的にＩＣＴを活用し、生徒の学びがどのように変わっていくか、観察を続け、研究を深めていきたい。今後の課題である。

なお、今回おこなった研究では、ビデオもタブレットも研究者の私物を使用した。現在の教育現場には充実したＩＣＴ環境は整っていないことも事実である。一つのグループがタブレットを使用していると他のチームはそれを使うことができず、順番を待っている場面が多くあった。体育に限らず、どの教科においてもＩＣＴ機器はアクティブラーニングにおいて有効な教材となるはずである。生徒が主体的、能動的、協働的に学習を進めていくためにも、今後のＩＣＴ環境の充実を望みたいと思う。

5　評価規準（ダンス）

	関心･意欲･態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
A 十分満足（5・4）	①全身で思い切り動く、リズムにのって、仲間との関わりを持って動くなどのダンスの楽しさや喜びを自ら進んで味わおうとする。 ②仲間を認め合いながら、積極的に誰とでも楽しもうとする。 ③練習や発表会で、グループの中心となって協力しようとする。	①グループや自分の能力に応じた課題を見つけ、その解決を目指して、表現したい内容を自ら進んで選んだりしている。 ②踊ったり、創作したりするときに、テーマにふさわしい具体的な動きを見付けだし、それを工夫し、変化させて構成したりしている。 ③練習や発表の場で、互いの良いところや、踊り方や表現を見直すことにより新たな動きをつくり出している。	①イメージにふさわしい動きや体で感じたリズムなどを素直に表現し踊り方を工夫をして体を動かして踊ることができる。 ②繰り返して強調したり,動きにめりはりを付けたりして,感情表現を豊にして踊ることができる。 ③リズムの取り方、動き方など、仲間と調子を合わせて踊ることができる。	①ダンスは仲間とのかかわりをもって踊ったり発表したりする楽しさや喜びを味わうことができる運動であるという特性について、言ったり、書き出したり、仲間に教えたりすることができる。 ②いろいろなダンスの学習の進め方や発表の仕方、相手の良さを見分けたり感じ取ったりする発表会の行い方、共感、感動するなどの鑑賞の仕方について具体例を挙げ仲間に教えることができる。
B おおむね満足（3）	①全身で思い切り動く、仲間との関わりを持って動くなどのダンスの楽しさや喜びを味わおうとする。 ②仲間と認め合って,誰とでも楽しもうとする。 ③練習や発表会で、グループで協力しようとする。	①,グループや自分の能力に応じた課題を見つけ、その解決を目指して、表現したい内容を選んだりしている。 ②踊ったり、創作したりするときに、テーマにふさわしい動きを見付けだし変化させて構成している。 ③練習や発表の場で、互いの良いところや踊り方や表現を見直し、新しい動きを選んだりしている。	①イメージにふさわしい動きや体で感じたリズムなどを素直に表現し全身で踊ることができる。 ②繰り返して強調したり、動きにめりはりを付けたりして,感じを込めて踊ることができる。 ③リズムの取り方、動き方など、仲間と調子を合わせて踊ることができる。	①ダンスは,仲間とのかかわりをもって踊ったり、発表し合ったりする楽しさや喜びを味わうことができる運動であるという特性について、言ったり、書き出したりしている。 ②いろいろなダンスの学習の進め方発表の仕方、相手の良さを見分けたり感じ取ったりする発表会の行い方、共感、感動するなどの鑑賞の仕方について具体例を挙げている。

C　努力を要する（2・1）	①全身で動く、仲間との関わりを持って動くなどのダンスの楽しさや喜びを味わおうとする。 ②仲間と認め合って楽しもうとする。 ③練習や発表会で、グループで協力しようとする。	①グループや自分の能力に応じた課題を把握している。 ②踊ったり、創作したりするときに、テーマにふさわしい動きを見付けだしている。 ③発表の場で、互いの良いところをとらえ、踊り方や表現の仕方を見直している。	①イメージにふさわしい動きや体で感じたリズムなどを素直に表現して踊ることができる。 ②繰り返して強調したり、動きにめりはりを付けたりして踊ることができる。 ③リズムの取り方,動き方など、自己のペースで踊ることができる。	①ダンスは仲間とのかかわりをもって踊ったり発表し合ったりする楽しさや喜びを味わうことができる運動であるという特性について理解している。 ②いろいろなダンスの学習の進め方発表の仕方、相手の良さを見分けたり感じ取ったりする発表会の行い方、共感、感動するなどの鑑賞の仕方にっいて理解している